

男女共同参画シリーズ その2

気が付けば技術士に

Unintentionally, I became a Professional Engineer

1 はじめに

今回、男女共同参画推進委員会から執筆のお話をいただき、改めていつ技術士を取得したのか確認したらもう6年も前のことでした。ただ目の前の業務に取り組んでいるうちに、表題のとおり気が付けば技術士を取得していました。今まで歩んできた道が、たまたま技術士取得へと向かっていたのだと思います。その道は、女性だから、母親になったから選択したように思います。そんなことを少し書かせていただこうと思います。

2 社会人になったばかりのころ

私は大学で応用化学を学んだ後、水質分析などを行う技師として福山市に採用されました。採用試験では男女の区別なく行われましたが、配属先の水道局では初めての女性技師とのことでした。



写真1 入職当時

同じ仕事をする中に女性が私一人ということで心の片隅に不安を抱えながらの社会人スタートとなりました。当時、作業着が用意されていなかったで、分厚いカタログの中にほんの少ししかない女性用の作業着を局の方と一緒に選んだのを覚えています。

しかし、その作業着を着て現場に出ることができたのは二年後のことでした。水質分析業務以外にも現場に出向いて分析する水の採取など行うこ

とがあります。水は意外と重く、また川や池の中央などで採取することもあり、力のない女性に危険なことはさせられないという配慮だったのだと思います。同期の男性は現場に連れて行ってもらい、多くのことを体験して戻ってくるのが私には少しうやましく見えました。

3 子育てと技術士受験

就職して10年余りが経ち、その間出産・育児を経験しました。子どもが小さい頃は、時間に追われたり突然の病気などで、頻繁に仕事を早退したり休んだりしていました。当然分析などの仕事は終わらないままです。そんなときは、いつも職場全体でカバーしていただいていた。本当に感謝しています。そして、それに甘えてばかりではいけないと思い、なるべく迷惑をかけないように効率よく仕事をする方法や引き継ぎ方を考えるようになりました。

このように仕事も子育ても自分の思うようにはいかないことを経験したからか、『やれるときにやっておかないと』『今を逃したら次はないかも』という気持ちが私の中に芽生えてきました。仕事も子育ても、自分に決定権があるわけでもありません。色々な制限がある中で、いかに自分のしたいことをやっていくかを考えるようになりました。

子どもが小学生に上がるころには、私にも少しずつ余裕ができ仕事も視野が広がっていききました。水質分析を行うだけでなく、水質を通して水道の他の部署とも関わるようになってきました。特に、水道水の原料である川やダム、水道水を作る浄水場、お客様まで届ける水道管について学び、そのどれにも水質が大きく関わっていることを実感しました。この頃から、『水質分析』から『水道の水質』に興味も移っていききました。

さらに、タイミングを同じくして、職場では有

志による勉強会が始まり、私も参加するようになりました。家庭の都合で参加できないこともありましたが、この勉強会では浄水処理について深く学ぶことができました。そこで、自分がどれだけ成長したかを客観的に評価したい、そのために技術士試験に挑戦しようと思ったのです。

その時にまず考えたのは、受験や勉強の時間を確保できるかどうかでした。当時娘は小学生で手がからなくなってきましたでしたが、中学受験するために塾へ通い始めていました。娘に迷惑をかけるわけにはいけないので、娘が塾に行っている間に勉強しよう。そして何としても6年生になる前に技術士を取得しようと思いました。そう決めて逆算すると、一次試験も二次試験も一度でクリアすることが条件になってしまいました。このような、言わば『行き当たりばったり』な挑戦でしたが、期限を決めて取り組んだのがよかったのか無事予定通り試験に合格することができました。

4 現在の私と日本技術士会

技術士を取得して6年がたち、現在は下水道の水質管理業務に携わっています。また、実務から一步離れて業務全体の管理監督を行う立場となり、新たに学ぶべきことは次から次へ尽きることはありません。現在は上下水道局に所属する化学技師の約4割が女性です。私が入職した20数年前とは違い、男性、女性関係なく一個人として接するのが当たり前の環境です。

福山市には技術士資格を持つ職員が少なからずいますが、女性の技術士は私一人のようです。また、先にも書いたように女性の先輩技師がおらず、自分の将来を描くことが難しいと感じていました。

そこで、先輩の女性技術士に出会えたらいいなという思いで日本技術士会に入会しました。女性の技術士は少ないですが出会うことができ、入会してよかったと思いました。

また、時折送られてくるメールで未来の女性技術士のために活動を行っていることを知りました。縁あって、私も時々技術サロンのお手伝いをさせてもらっています。

先日は呉工業高等専門学校に在籍している女子学生に接する機会がありました。技術職を目指す女子学生が多いことに驚き、私たち先輩技術士の経験談を真剣に聞いている姿に心強く感じました。



写真2 技術サロン参加者と

5 終わりに

私は、将来よりも今に目を向けて自分の進む道を決めてきました。もしも早くにお手本にしたい女性の技術者に出会っていたら、もし若い頃に技術サロンに参加していたら、きっと違った人生になっていたと思います。どれがいいかは人それぞれでしょうが、どれが自分に合っているかは、選択肢が多くある方が見つけやすいでしょう。私の生き方も選択肢の一つとしてお役に立てたらと思っています。

技術士を受けた時に小学生だった娘は高校3年生になり、私と同じく理系の道に進もうとしています。娘が社会人になる頃には、きっと多くの女性技術士が活躍している明るい未来が待っていることでしょう。

男女共同参画推進委員会から

その時々で何をすべきかを見つめ、キャリアを積み重ねてきた山口氏。中国本部で開催される技術サロンのスタッフとして活躍されています。

山口 裕子 (やまぐち ひろこ)
技術士（上下水道部門）

福山市
上下水道局 水質管理センター
e-mail : hiro-marimba@nifty.com

